

# 1 自己評価及び外部評価結果

## グループホームあすなる窪田

事業所番号	0690400080		
法人名	あすなるの会		
事業所名	グループホームあすなる窪田		
所在地	山形県 米沢市窪田町窪田1421-1		
自己評価作成日	平成 24年 8月 16日	開設年月日	平成21年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と日々の生活をともにし、日常の作業を利用者様の協力を得て、分担し行なっている。又、協力医からの体制も強化され、利用者様の健康の維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者の意向を踏まえながらのケアがなされており、家族の意見や職員の教育に関しては、法人が全体で取り組んでいる。又、医療面に対する取り組みや、地域との連携に関しては事業所が積極的に取り組みつつあり、徐々にその成果が出ている。職員全体で改善に対する取り組みが伺える事業所である。

事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成24年9月25日	評価結果決定日	平成24年11月2日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>理念に基づく運営</b>						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	NPO理念に基づいて職員間での共有は出来ているものの、事業所の理念については、見直しを検討している。	事業所独自の理念は職員間での話し合いで作られている。方針については10月頃に見直し予定である。理念と方針の一体が必要と思われる。	理念を達成する為に、どのような方針で望むか職員間で話し合いを行い、支援にあたって行く事が望まれる。更に、理念の中に地域との関わりを明示することも望まれる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた時など近所の方々や立ち話をしたり、挨拶を交わす程度に留まっている。地域環境で一斉清掃の声掛けが有り、国道側の歩道の清掃に参加したり、今年も夏祭りを開催し、施設内を見学して頂き、今後の協力体制についても話が出来た。	夏まつりを開き地域の方々へ呼びかけ、事業所内を見学して頂いた。地域の清掃等にも参加している。10月にはいも煮会を計画するなど、徐々に地域とのふれあいを深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に職場での「取り組み」と題して、「認知症ケアの原理・原則、認知症の症状の対応と評価について」職員全員で改めて勉強会を行なったと報告をさせて頂き、その資料も添付し説明はしたが、まだまだ活かしてきていないのが現状である。			
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、家族や地域の方々からの意見については、即職員に報告・検討し、改善案を実行している。	2ヶ月に1回定期的な会議を開催しているが、地域の民生委員や町内会長の参加があまりない。参加しやすい時間等の検討が望まれる。会議の課題によって参加者を選択しても良いと思われる。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者が多い為、福祉課からの訪問も多く、その他、問題を多く抱えている為、出向き相談をしている。	生活保護受給の利用者が多く、その関係もあり町役場からの訪問も多い、又相談の為、役場に出向くことも多くある。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかける工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	その方の様子を伺い予測できるものについては、職員がマンツーマンで付き添い対応している。帰宅願望が強く出るようであれば、散歩やドライブに誘い気分転換を図るよう勤めている。	施設はされていないが、センサーで出入りが判断できるようになっているが、センサーに頼らない様に利用者の様子を見ながら付き添いで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで事業所内の研修として、認知症の行動・心理症状についての中で、利用者に対して抑圧的な言動も虐待になるなど話し合いを行っているが、まだまだ介護する側の立場からの対応になっている職員も見られるので今後も研修は必要である。			
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている利用者が入所されている。他の利用者も必要と思われるが市との話し合いも進めているが、ご本人が納得されない状況。日常生活自立支援についてはご家族と話し合いを持ち、利用する事になった方がいる。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際十分説明しているつもりでいても、後から色々疑問等の問合せが有り、その都度説明は必要である。			
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等では多く意見・要望が出されており、日々のケアに対応が出来ていると思われる。又面会に来所されたご家族にはその都度要望等を聞く時間を取って対応している。	介護相談員が年4回訪問している。意見箱は置いていない、あすなる会(法人)で他の事業所も含めてアンケートを取り、サービスの質の評価をしている。家族が面会の時は時間を作って意見、要望等を聞くようにしている。		
11		運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者としては職員からの意見要望は聞きいれ反映できるよう勤めているが、事業所での判断が出来ない意見については法人代表者に委ねるが反映までは至っていないのが現状である。			
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境については後回しにされているという感じが強く有り、職員からは不満が出ている。時間外についての支給については改善されたものの、賞与・夜勤手当・基本給の部分では見直しの要望が多く見られる。			
13	(7)	職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修については定期的に行なわれている。個人の資格取得について(介護福祉士)も支援をしている。	法人として各事業所から研修担当者を出して研修委員会を組織、研修を定期的実施している。新人研修は管理者が講義、外部研修参加は本部主体で稟議で参加が決定されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH協議会に参加し、交換実習や研修などに参加している。又、ケアマネ会議にも参加し、他のGHの方と交流は出来てはいるが一部に留まっている。	GH協議会に参加し情報を得ている。交換実習は今年は受け入れてない。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接において、じっくりと本人の聞き取りを行ったり、家族より聞き取りをし、その内容については、職員全員に周知している。又、センター方式により、アセスメントを職員全員で行い、環境の変化による不安を出来るだけ少なくするよう心がけている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	小さな事でも時間を取り、話し合いの場を設け不安や要望に応える努力をしている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントでの評価を職員皆で話し合いを行い、GHが最適の場なのか、どう関わっていくべきかを検討している。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は何とか助けになると思って居られます。新規の利用者は戸惑って居ますが、段々慣れてきています。職員に関しては、一方的に介護してしまう傾向にある者も一部見られる。			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か有れば電話で連絡を取り、本人の様子を伝えたり、必要な時は実際の様子を見て頂き、関わり方を提案し、一緒に改善方法を検討したりしている。			
20		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこだわっている出かけたい所には付き添い、面会にいらっしゃるお友達との時間を大事に出来るよう環境を整えている。又、馴染みを本人との会話から、家族から伺い再アセスメントする事で新たな支援に繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で担当が有り、うまく関わりを持っている。利用者同士で支えている場面も見られます。時としてトラブルが有る場合は職員が間に入り対応している。			
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入所された方へ利用者との面会に出かけたり、家族とも連絡を取り状況を把握している。			
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から生活歴等を伺ったり、本人との会話から希望を把握したり、センター方式の中の本人の思いを全員で話合う機会を設け本人の意向や希望に近づけるよう努力をしている。	ADLのアセスメントもしっかりしている。本人の思いや意向も日常生活の中で把握している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人主体で有るよう定期的にアセスメントし、家族からの聞き取りで今までの生活により近い環境を作るよう心がけている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月一度のモニタリング個別カンファレンスを行い、担当者会議にて職員共有しできるだけその人らしい生活が出来るよう心掛けている。			
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が立てた目標に添って支援し、評価を行い毎月見直し、検討している。また、介護計画についてカンファレンスで職員全員でケアについて気付きやアイデアを出し合いその都度見直しを行なっている。	毎月のモニタリングで評価しており、短期目標を明確にして職員で共有して介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記入量は利用者、職員により偏りが生じている。特変については、職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供が遠方に居る利用者については、姉妹や親戚の方に面会に来て頂けるよ働きかけたりしている。庭の草花を摘んで部屋に飾ったり、農道を散歩したりして楽しんでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が往診医で診て貰う事となった。他の医療機関に関しては、状況報告書にて報告し、職員付き添いにより、詳細を伝達し、適切な医療が受けられるよう支援している。	昨年の外部評価の課題であったが、アンケートからも家族の安心が伺えた、目標達成の取り組みがしっかり、解決されていた。9名の内7名が月2回の往診になる。血液検査、レントゲン検査も進められている。又法人本部の看護師が週1回巡回している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問する看護師に状況を伝えたり、相談したりしている。受診に備えて主治医に適切な状況を伝えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医と総合病院との連携が取れており、協力体制は構築されている。他の医療機関とはうまく取れていない状況である。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	新規入所者には終末期。重度化した時の意向を書面で頂いている。以前入所者に関しては状況が悪くなって家族に来所して頂き、今後話し合いの場を設け、意向を書面で頂きます。	「重度化した場合における対応」と「終末期の意向確認書」を入所時に書面で意向を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前研修を受けた職員が期限切れており、8月より保健所からの受講を職員全員に受けてもらう計画です。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あすなる会の職員が各事業所へ応援体制が取れる仕組みを検討中。又、地域の方々に施設内を見学して頂き、今後の協力体制をとって頂きたいと考えている。	避難訓練10月予定、災害マニュアルは事業所としてはなく、今法人で作成中、又防災に対して検討中である。昨年の課題であったので、隣の自転車屋さんの空き地が避難場所として獲得したのは評価できる。	法人のマニュアルも必要であるが、地域、事業所、町の役割を明確にした、事業所独自のマニュアルの作成が必要である。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重はしているつもりではいるものの、時として不適切な言葉かけや対応であったりする場合が多く見られる。一部の職員の介護に関わる上での認識不足も見られる。	研修課題として取り上げられ教育をしている。現場での問題が見受けられた場合は、その都度管理者より、指導している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを自分から表せない方については選択しを提示し、自己決定出来るよう支援している。時には職員により決定されている場面も見られる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大半は利用者のペースで過ごされていますが、買い物等人員的に制限があり、希望に副えない時や思いを表に出せない方については見過ごしたり、職員側の判断になってしまう傾向は有る。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に出かけたり、化粧が出来るスペースを整えたり、毛染め・洋服選びを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をする事を嫌う利用者が居り、気を使いながら調理されている場面があり、職員の配慮が大変であるが、下ごしらえ・後片付けは行なっている。	献立は業者(イチフジ食品)のを参考にしている。下膳は各自が自発的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個別に摂取量の把握をし、対応出来ている。薬の副作用などによりカリウム不足を引き起こす心配がある方には、野菜ジュースで補えるよう支援している。</p>			
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>その方に合った口腔ケアを支援している。</p>			
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>利用者の排泄のパターンを把握し、声かけ誘導を行なっている。日中の失敗は少なくなっていますが、夜間も時間をみて誘導しトイレでの排泄を支援している、オムツ外しをしている利用者の中で失禁が見られる方についての対応が現在の課題である。</p>	<p>排泄チェック表を利用して声掛けで排泄の支援をしており、日中はリハビリの使用にとどめている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎朝ヤクルトを飲んで頂いたり、腹部のマッサージ・繊維の多く含む食事を取り入れたりしているが、薬に頼ってしまう場合が多くなってきている。</p>			
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>出来るだけ本人の希望に応じての対応を心がけているが楽しみとしての対応は出来ていない。</p>	<p>毎日入浴できる体制である。自立している利用者は自由に入浴している。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中、居室で休まれる方、又はホールのソファで休まれる方それぞれの状況に応じて対応している。居室内はこまめに空調管理を行い、エアコンを嫌う方についてはホールにいらっしゃる時に居室を冷やすなど工夫を行い心地良く休んで頂けるよう支援している。</p>			
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方箋については、職員が確認できるよう記録機にコピーし、確認を行なっている。薬の変更が生じた時は状況を詳しく記入し、職員間で共有できるようにしている。</p>			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般をそれぞれ力量に応じて行なえるよう支援している。週1回パン屋さんで訪問販売に来てくれた時はそれぞれ好みの物を購入したり、月に何度かは外食したり、お茶の時間を利用して、ソフトクリームやイベントに出かけこんにやく団子などを召上って頂き気分転換を図っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物に出かけたり、毎月ドライブに出かけているが、普段行けない場所までの支援はなかなか出来ていないのが現状。親戚の所やお墓参りなど希望されている方もいらっしゃるので、希望に副えるよう支援している。	月1回はドライブで花見に行っている。日常は、食品の買い物又その人の欲しいものがある時は職員が同行して外出している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自財布を持っていて職員が管理しているが、必要に応じて外出した時に持ち出し、買い物をし小遣い帳を付け残高の確認をしていただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をしていただいている。以前居た職員などに手紙を出している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく居心地が良い空間を提供している。朝は空気を入れ替え、室温などにも十分配慮している。利用者、自ら庭の草花を摘み飾っている。	居間から田んぼが見えて、自然の中にいるような環境である。狭いながらも落ち着いた環境である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士やトラブルにならないように配慮し、食席を工夫している。玄関のソファやホールのソファで思い思いに過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状況に合わせて手すりを付けたり、配置を換えたり家族から馴染みの物を持参して頂いたりして、落ち着いて生活が送れるよう工夫している。	各自の生活が見えて、安心して生活ができるように工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各職員がそれぞれの利用者の出来る事・出来ない事を把握し、出来る事は見守り、出来ない事はどうすれば出来るかなど検討し、介助が過剰にならないよう心がけている。		